

T S16/7

16/7/1 (Item 1 from file: 351)
DIALOG(R) File 351: Derwent WPI
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

007686178

WPI Acc No: 1988-320110/198845

Cosmetic with porous spherical cellulose as scrubbing agent - promotes blood circulation and skin metabolism

Patent Assignee: DAICEL CHEM IND LTD (DAIL)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 63238008	A	19881004	JP 8771067	A	19870325	198845 B

Priority Applications (No Type Date): JP 8771067 A 19870325

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 63238008	A	3		

Abstract (Basic): JP 63238008 A

Cosmetic contains porous spherical cellulose of grain size 0.1-1.0 mm and bulk specific gravity 0.1-0.7 g/cc. Cosmetics include soaps, cleansing creams, vanishing creams, massage creams, packs, etc., excluding powder cosmetics. The amt. of cellulose used is 0.1-50 wt.%, depending on the type of cosmetic. Blending of the particles is carried out using a homogeniser or stirrer. A sample was prepd. by dissolving cellulose triacetate in methylene chloride contg. methanol, adding a mixt. of dibutyl phthalate and methylene chloride with stirring, and dispersing in the resulting soln. a 1% gelatin soln. with stirring to obtain an original suspension. The suspension was again suspended in isopropanol, heated at 80 deg.C, filtered and washed.

USE/ADVANTAGE - The cellulose particles remove dirt from the pores of the skin, aged corneum, and sebum, and promote blood circulation and skin metabolism by a massage effect, preventing and curing blotches. The material is safe and economical.

Derwent Class: A96; D21

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; C11D-009/38

?

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-238008

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)10月4日

A 61 K 7/00

7306-4C

7/02

7306-4C

C 11 D 9/38

7614-4H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 化粧品

⑯ 特 願 昭62-71067

⑰ 出 願 昭62(1987)3月25日

⑱ 発 明 者 松 本 明 子 兵庫県姫路市余部区上余部500

⑲ 発 明 者 籠 谷 昌 宏 兵庫県姫路市余部区上余部500

⑳ 出 願 人 ダイセル化学工業株式 大阪府堺市鉄砲町1番地
会社

㉑ 代 理 人 弁理士 古 谷 馨

明 細 書

1. 発明の名称

化 粧 品

2. 特許請求の範囲

粒径0.1 ~ 1.0 μm 、かさ比重0.1 ~ 0.7 g/cc
の多孔性球状セルロースが配合されていること
を特徴とする化粧品。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はスクラブ剤として多孔性球状セルロースを配合した化粧品に関する。

〔従来の技術及びその問題点〕

近年、皮膚の汚れ、角質化表皮などを取り除く目的で使用する洗顔料、いわゆるスクラブ洗顔料の使用が盛んになって来た。現在市場では、スクラブ洗顔料としてはアブリコットやアーモンド等の植物種子を砕いたもの、樹脂系ポリエチレン、軽石等の無機系由来のものを使用した洗顔料が出回っている。しかし、これらのスクラブ剤は硬度が高過ぎて皮膚を傷付けたり、ま

た植物系のものでは腐敗し易かったりする等の問題点がある。

セルロース微粒子を含む化粧料としては、特開昭61-100514号公報にその皮膚付着性、吸液性、被覆性などを利用した粉末化粧料、俗に言うパウダー、おしろいなどが示されているが、ざらつきのあるセルロース微粒子の研磨作用を利用したスクラブ洗顔料についてはまだ知られていない。セルロース微粒子はその製法によって物性の異なったものが得られるのでスクラブ洗顔料として適当なものを得る可能性がある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明者らはさきに、セルロース脂肪酸エステルを特別の方法でゲル粒子とし、該粒子を加水分解してクロマトグラフ担体などに優れた性質を有する多孔性球状セルロース粒子を得、その製法を特許出願した(特願昭61-241693号明細書参照)。

クロマトグラフ担体用粒子は、粒径0.1 μm 以下の大きさであるが上記製法はそれより大きな

粒子の製造にも適用できる。本発明者らは、上記方法によって粒径0.1～1.0 mmの多孔性球状粒子を得、スクラブ剤としての応用を試みたところ、顕著な効果を収めるものであることを認め、本発明に到達した。

(発明の構成)

即ち、本発明は、粒径0.1～1.0 mm、かさ比重0.1～0.7 g/ccの多孔性球状セルローズが配合されていることを特徴とする化粧品に関するものである。

詳しくは本発明は特定の物性を有する多孔性球状セルローズ微粒子を含有することにより、洗浄効果あるいはマッサージ効果に優れた化粧品に関するものである。

ここで述べる化粧品としては、石けん、クレンジングクリーム等の洗浄料、バニシングクリーム、中性クリーム、コールドクリーム、マッサージクリーム、ボディークリーム等のクリーム類、パック類が挙げられ、粉体化粧品は除く。

本発明に使用する多孔性球状セルローズ微粒

子の大きさは、化粧品のタイプにより若干異なるが、粒径が0.1～1.0 mm、かさ比重0.1～0.7 g/ccの粒子が良い。これより小さい粒子になると適度な硬度や弾力性が得られず、またこれより大きいと研磨作用が過度になり、また肌への違和感も生じてこち良い使用感が得られない。

本発明で使用する多孔性球状セルローズ微粒子の化粧品への配合量については、これも化粧品のタイプにより異なるが、化粧品全組成の0.1～50重量%（以下、単に%と略す）、好ましくは1～20%配合するのが良い。配合量が0.1%より少ないと球状セルローズ微粒子による洗浄効果やピーリング効果、マッサージ効果が得られず、また50%より多くなると化粧品基剤そのものの洗浄効果や油分等が低下するので好ましくない。

上記の多孔性球状セルローズ微粒子を化粧品基剤に配合する方法としては、いずれの方法でも良いが、ホモジナイザーあるいは攪拌機等の分散機を用いると短時間内に目標とする分散状

態を達成することが出来る。

(発明の効果)

本発明の多孔性球状セルローズ微粒子入り化粧品は、配合された適度な硬度と弾力性を有する多孔性球状セルローズ微粒子により、石けんだけでは落ちない毛穴の汚れ、古くなった角質層、皮脂分等をピーリングしてとり除いたり、またそのマッサージ効果により血行の循環を良くするとともに、肌の新陳代謝を促すことからシミの予防および治療効果も期待できる。本発明の化粧品は、セルローズという天然に存在し、安全でかつ入手の容易な素材を利用している点からも、現在の天然物指向の風調にマッチした新しい化粧品と言える。

(実施例)

以下に、製造例、実施例、使用例をあげて本発明を詳細に説明する。

製造例

セルローストリアセテート（ダイセル化学工業製、酢化度61%）25gをメタノール30mlを

含む塩化メチレン170 mlに溶解した。この溶液にジブチルフタレート30mlと塩化メチレン30mlの混合物を加え、攪拌して均一な溶液としたものを、消泡剤（アンチホーム E-20 1.0g）を含む1%ゼラチン0.5 l中に約750 ppmの回転数にて攪拌しながら分散させた。得られた懸濁液を1%ゼラチン水1 l中にゆっくり攪拌しながら投入し、1時間攪拌をつづけた。静置後、上澄みを除き、水-イソプロパノール（1:1）混合物1 lを加えしばらく攪拌した。濾過した後、水で充分に洗浄した。次いでセルローズ微粒子を、イソプロパノール1 l中に懸濁させ、70℃～80℃に加熱し、2～3時間攪拌した。濾過後、イソプロパノール0.5 lで2回洗浄し、さらに水中に分散させて80℃で2時間処理した後、濾過し、十分な水で洗浄した。湿潤状態において、ふるい分けを行い、粒径0.5～0.85mm、かさ比重0.6g/ccの多孔性球状セルローズを得た。

実施例（クレンジングクリーム）

ミツロウ	3.0%
固形パラフィン	5.0
ワセリン	15.0
流動パラフィン	41.0
ソルビタン・セスキオレート	4.2
ポリオキシエチレン ソルビタンモノオレート	0.8
精製水	25.0
香料	1.0
製造例で得た多孔性 球状セルロース微粒子	5.0

上記組成物のうち香料と多孔性球状セルロース微粒子以外の各組成物を70℃に加熱、溶解した。得られた混合物を45℃に冷却し、香料および上記の製造例で得られた粒径0.5～0.85 μ mの多孔性球状セルロース微粒子を加え、ホモジナイザーで均一化して多孔性球状セルロース微粒子入りクレンジングクリームを得た。

比較例

実施例における多孔性球状セルロース微粒子のみを含まない組成で、実施例の場合と同操作

により、多孔性球状セルロース微粒子を含まない比較用クレンジングクリームを作成した。

上記実施例および比較例で作成した多孔性球状セルロース微粒子入りクレンジングクリームおよび比較用クレンジングクリームについて、5人の女性パネラーによりその使用感を比較した。パネラーは各クレンジングクリームのそれぞれを適量手のひらにとり、顔全体を指先で円を描くように軽くマッサージした後、通常の石けん洗顔を行った。使用頻度は1日2回とし、3日間使用後、比較用クレンジングクリームに対する多孔性球状セルロース微粒子入りクレンジングクリームの使用感を調べた。

結果を第1表に示した。

第 1 表

パネラー	使 用 感
A	1日目から肌がなめらかになり非常にここち良い。
B	非常に良い。ザラザラ感が気持ち良い。
C	肌がひきしまった感じ。
D	肌がなめらかになった。使用時、少し違和感があった。
E	良い。マッサージクリームを使わなくて良いから便利。

第1表より全パネラーとも多孔性球状セルロース微粒子入りクレンジングクリームの使用感の良いという結果を出しており、多孔性球状セルロース微粒子がスクラブ剤として、非常に効果的であることが判明した。

以下にその他の使用例を示す。

使用例1 (コールドクリーム)

ミツロウ	15.0%
流動パラフィン	50.0
精製水	30.0
ホウ砂	1.0
多孔性球状セルロース微粒子	4.0

使用例2 (パック)

酢酸ビニール系乳剤	32.0%
ソルビトール	5.0
カオリン	30.0
亜鉛華	10.0
多孔性球状セルロース微粒子	3.0
精製水	20.0
香 料	適量
防腐剤	適量

出願人代理人 古 谷 肇